

篠原一男 3つの住宅

『篠原一男 3つの住宅』は、20世紀の日本の建築家の中でも最も影響力の大きかった建築家の一人、篠原一男(1925-2006)の代表作である〈白の家〉(1966)、〈上原通りの住宅〉(1976)、そして〈ハウス イン ヨコハマ〉(1984)を詳細に分析した待望の作品集である。

オリジナルの実施設計図書を基にして同一縮尺で新たに描き起こされた数々の図面、これまで出版されたことのなかった篠原自筆のスケッチ、そして作品が発表された当時の貴重な写真を、読者は一望のもとに目にすることができる。さらに、東京工業大学で篠原一男の同僚であったデイヴィッド・B. スチュワートのエッセイと奥山信一へのインタビューが、この3つの住宅が篠原一男の作品全体の中でどのように位置づけられるのかを解き明かし、この建築家独特の設計手法に関する新たな見識をもたらしてくれる。

建築家西沢立衛による序文は、篠原一男が今なお大きな影響力を失っていない理由を、読者に雄弁に語りかけるだろう。

編集：クリスチャン・デリ、アンドレア・グロリムンド

写真：村井修、多木浩二、帆足侑兀、大橋富夫

グラフィックデザイン：エレクトロスモッグ

212 ページ、30×37.5cm

図版 78 点、建築図面 45 点

上製本糸かがり綴じ

和英併記

ISBN 978-3-03761-167-8

98CHF (スイスフラン) / 89EUR (ユーロ)

出版：2019年5月